

滝上の人

交通安全を願って

今回は、幸町 山口のりこさんにスポットをあてていきます。

山口さんは、昭和26年滝上町生まれの69才。3人兄弟の1番目で、家は札久留で畑作農業を営んでいました。

学校は札久留小学校・中学校に通いました。当時は、戦後生まれの年代で子供達が多く、札久留の農村地区で1クラスに同級生が30名もいました。人数が多く、活発な子も多かったので、先生達も大変であったと回想していました。

自宅は学校の隣にあったため、学校のチャイムが聞こえるのと同時に家を出て学校の玄関に到着。9年間で校門をくぐったのは数回だったそうです(笑)。

放課後の遊び場はもちろん、グラウンド。友人10人くらいで泣いたり笑ったりして遊んでいました。また今と違い、当時の先生達は厳しかったので、ゲンコツや廊下に立たされたりといったことを覚えています。

その後、滝上高等学校の定時制課程に進み、働きながら学校に通いました。

高校卒業後は、道外に就職。その後、34才の時に滝上に戻ってきました。

交通安全との関わりについて教えてください。

昭和61年に滝上町交通安全協会の事務局職員として働くことになりました。それから平成28年に協会を退職するまで、30年にわたりこの仕事に関わることができ、ありがたく思っています。

協会在職中、習得した腹話術で、こども園や敬老会などにおいて、交通安全を呼びかけてきました。行く先々で喜んでもらい、交通事故の防止につながってきたのではないかと、思っています。

また、1番の思い出は、滝上町交通安全少年団が交通安全子供自転車北海道大会で連覇を果たし、全国大会で活躍してくれたことです。

協会退職後の現在、地域交通安全活動推進委員としてボランティアで交通安全に関わっています。

趣味のスポーツについて教えてください。

小さい頃からスポーツが苦手であったのですが、40代から体力づくりとして始めた自転車が好きになり、オホイックサイクリングへの参加をきっかけに、美幌のデュアスロン、ツール・ド・北海道に挑戦しました。そして、夏はフルマラソン、冬はクロスカントリーと活動を広げ、自身の記録更新を励みに走り回っていました。現在は膝の故障もあって、主にウォーキング。溪谷遊歩道は最高のコースで、時間を見つけて楽しんでいきます。

皆さんにご協力をお願いします。

これまでずっと交通安全に携わってきましたが、交通事故を他人事と思わずに自動車を運転する方はもちろん、歩行者の方にもルールとマナーを守って事故を起こさない、遭わないよう過ごしてほしいと思います。



昨年の敬老会で腹話術により交通安全を呼びかける山口さん